

図書館インフォメーション

冬の図書館は

おすすめコーナーがいっぱい!!!

寒い冬に
じわーっと沁みる

近場の温泉
コーナー

1月は出初式!!
消防車の絵本
コーナー

冬はこたつで
編み物の本
コーナー

2024大河ドラマが話題
紫式部・源氏物語
コーナー



富沢図書館

寒い冬は図書館で
過ごしませんか?

みんなで一緒に
あったかごはん
コーナー



大好評!! 2024年

映画・ドラマ原作
コーナー

□2024年1月17日

発表の芥川賞・直木賞にも
注目です!!!

大好評!!

NHKテキスト続々入荷!!

児童書や健康本、人気レシピ本
などの新刊を揃えています。

どうぞご利用下さい!!

❀図書館よりお知らせ❀

南部町立図書館・富沢図書館では、それぞれ二年間保存し廃棄処分となる雑誌(2020年発行のもの)を無料で配布いたします。

なお、冊数につきましては、多くの方のお手に渡るよう、ご理解とご協力をお願い致します。

・2024年2月1日(木)~無くなり次第終了

・南部町立図書館、富沢図書館、各入り口付近

※ご不明な点がございましたら、各図書館職員にお声掛けください。

- ・乳幼児リトミック教室
2月7日(水) 10:30~11:30
- ・乳幼児おはなし会 のんたんの部屋
2月14・21日(水) 10:45~11:30
- ・わくわくおはなし会
2月17日(土) 13:30~14:30



※各種催し物は、新型コロナウイルス感染予防のため中止になる場合があります。なお、中止の場合はFM告知放送でお知らせします。

町立図書館では、年代別のおすすめ本の紹介などの情報を図書館だよりで配信しています。図書館だよりのバックナンバーは右のQRコードを読み取るとご覧いただけます。



お問合せ 南部図書館 ☎62-9292

美術館 (展示の紹介)

ウ
ヒ
ヒ

宮西達也の
ナンダーランド展の会期が2月
18日(日)までとなっております。

先生の原画と町内小学6年生の作品を
展示しており、美術館はミヤニシワールド
が炸裂しております。

ぜひ、お友だちをさそい、宮西達也のウ
ヒヒナンダーランド展お越しください。
入場無料です!!!



今月の新刊情報



星を編む

凧良 ゆう 著
講談社



才能という名の星を輝かせるために、魂を燃やす編集者たち。漫画原作者・作家となった権を担当した2人の編集者が繋いだものとは。「汝、星のごとく」の続編。

ひとり旅日和5

幸来る!

秋川 滝美 著
KADOKAWA



人見知り非要領の悪い日和、ひとり旅を通して自信が付き、心が大きく成長していく。絶景も、ご当地グルメも一期一会!

山ぎは少し明かりて

辻堂 ゆめ 著
小学館



佳代、千代、三代の三姉妹が暮らす瑞ノ瀬村にダム建設計画の話が浮上する。佳代は夫・孝光とともに、故郷を守ろうと奔走する。

首

北野 武 著
KADOKAWA



羽柴秀吉と千利休に雇われ、謀反人と逃げ延びた敵を探す旅をする曾呂利新左衛門。信長、秀吉を巻き込み、首を巡る戦国の饗宴が始まる。

無敵の犬の夜

小泉 綾子 著
河出書房新社



北九州の片田舎。中学生の界は、「バリイケとる」男・橋さんに強烈に心酔していく。切れ味鋭い新人作家による文藝賞受賞作。

かみさまは高校2年生

LAST MESSAGE

すみれ 著
サンマーク出版



「幸せとは一体何か?」について、かみさまとお話できる女の子からのラストメッセージ。

蛸足ノート

穂村 弘 著
中央公論新社



胃カメラの飲み方を褒められ、似合わない服装に赤面し、おばちゃんの会話術に学び、日常に予期せぬ笑い魔法が絡みつくエッセイ。

あなたのままで、

大丈夫。

増田 史 著
主婦と生活社



あなたを幸せにすることは、あなたにしかできません。今日からできる「自分をケアする60のワーク」をあますことなく公開。

おすすめ本

千年前のベストセラーは、千年経っても面白い。紫式部が生きた平安時代とはいったいどのような時代だったのでしょうか。図書館では、様々な作家によって描かれた源氏物語の世界をご紹介します。



一冊でわかる
平安時代
世界のなかの
日本の歴史
大石 学 監修
河出書房新社



月ぞ流るる
澤田 瞳子 著
文藝春秋



ワケあり式部と
おつかれ道長
奥山 景布子 著
中央公論新社

近藤喜則史料展示室へ石川益守の絵が寄贈されました

昨秋、市川三郷町在住の書家 ^{なかごみかず} 中込蘇様より町立図書館「近藤喜則史料展示室」へ、石川益守 ^{いしかわますもり} 画の掛軸一幅が寄贈されました。中込さんのお話では、20 年来所有していたこの絵の作者益守がどのような人物か、常々関心を持っていたとのことでした。昨春アルカディア文化館の「近藤喜則史料展示室」を見学した際、益守が江戸時代の南部の人であることを知り、ゆかりの当展示室への寄贈を思い立ったそうです。

=作者 石川益守とは=

石川益守について説明します。石川益守が町内の資料に登場するのは、①近藤喜則の自伝『一家小伝』の「十歳のころ石川益守翁に手習いを習う」②江戸末期から明治・大正にかけてのこの地区のことを記録した木内三朗著『落穂拾遺』の「甲斐屈指の学者にて…書画を善くし、翁の筆ニなる書画近郷に傳わる」、の2つです。不明な点が多く謎多き人物でしたが、研究の進展で、妙浄寺にあるお墓を確認することや、天保6年の南部宿絵図の中に住居を特定することができました。さらには甲斐国絵図の作成や日本初の東海道・中仙道の宿場間の距離早見表を作成したことなど、驚くべき業績を残した人だということもわかってきました。

=寄贈された絵について=

図柄は西暦 105 年に紙を発明した事で知られる後漢の人、蔡倫 ^{さいりん} に関するものです。伝統和紙の里身延町西島地区の「蔡倫社」にもその名を留めている人物です。絵の大きさは横 29 cm×縦 66 cm。絵の上部には 431 文字からなる「賛（絵の上部に書かれた文など）」と 20 字からなる「款記（制作年や作者名などを記したもの）」が記されています。「賛」には「後漢書によると、樹皮や麻くずを原料にして紙を量産可能にしたのは蔡倫だ。これ以前にも紙のような物はあったが、安価で良質な紙の大量生産は蔡倫のおかげである」といった事が書かれています。「賛」の下段には蔡倫 ^{さいりん} と思しき製作を指導監督する官吏 ^{かんり} 風の人物、それに紙漉き職人と原料打ちの職人、そしていくつかの道具類が描かれています。細やかで、そして確実な線で描かれた人物からは、それぞれの紙作りに懸ける思いが伝わって来るかのようです。使われている色は淡い三色のみ。最小限の色彩と巧みな空白の利用から醸し出される清楚で穏やかな画風は、作者の高い技量を感じさせるとともに、晩年の益守の境地を想起させます。この絵の完成の7か月後、益守は亡くなっています。

=この絵の歴史資料としての意味=

この絵の歴史資料としての意味について以下2点を挙げる事ができます。①「款記」の「時天保十三壬寅年正月 應需寫得 七十五翁益守」の記述より、この絵が益守 75 歳の作品であることがわかる。これにより不明だった益守の生年が明和 5 (1767) 年であることが判明。②「賛」は、中国の史書『後漢書』を基に書いたということで、「甲斐国屈指の学者」（前出『落穂拾遺』）らしい益守の学識の高さの再認識。

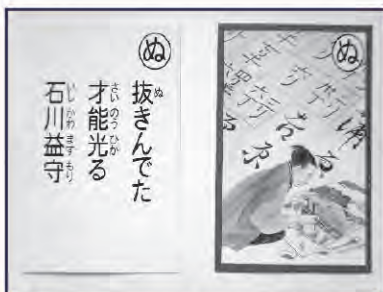
これらの事より、この絵はまた一步、益守の人物像に近づくことができる貴重な歴史資料と言えます。

今回の寄贈は、アルカディア文化館の「近藤喜則史料展示室」からの発信が契機となりました。新たな資料が増えることは、歴史をより豊かにとらえることを可能にし、郷土に対する新たな思いと愛着を生みます。改めて、発信していくことの大切さを感じています。

終わりに、2019 年に作成された『南部町ふるさとカルタ』では、益守について「^ぬきんでた 才能光る 石川益守」として取り上げられていることを付記しておきます。



寄贈された石川益守の作品



『南部町ふるさとカルタ』より